

# 【社会・小6・「戦国の世から天下統一へ」】①

## 育成を目指す資質・能力

- 「知識及び技能」：キリスト教の伝来や、織田・豊臣の天下統一への歩みを各種資料で調べまとめ、戦国の世が統一されたことを理解する。
  - 「思考力，判断力，表現力等」：キリスト教の広がりや織田信長・豊臣秀吉の政策に着目して、事象を相互に関連付けたり総合したりし、戦国の世の統一とそれに果たした2人の人物の役割を多面的に考え、表現する。
  - 「学びに向かう力，人間性等」：戦国の世の統一について主体的に追究しようとする態度を養うとともに、先人によって作り出された歴史を大切にして国を愛する心情を養う。
- ◎本時6/6のねらい 討論形式で織田信長と豊臣秀吉の働きについて話し合うことを通して、戦国の世が統一されたことへの理解を深める。

## ICT活用のポイント

【授業の視点】天下統一へより大きな役割を果たした人物について話し合う場面において、ICT端末を活用して理由を伝え合うことによって、多様な考えを共有し新たな視点を得て、多角的に考えを深めることができる。

### 【つかむ】

資料を基に群雄割拠の世の中が統一されたことへの疑問等を話し合い、学習問づくり学習計画を立てる。

### 【追究する】

日本と外国とのかかわり、織田信長や豊臣秀吉が行ったこと等から、天下統一が進められたことを多角的に考察し、表現する。

### 【まとめる】

天下統一を進めた二人の武将の働きについて話し合い、戦国の世が統一されたことへの考えを表現する。

## 事例の概要

「社会的な見方や考え方を育てる指導の工夫」をテーマとしてICT端末を活用しながら授業を行った。子供たちは「織田信長と豊臣秀吉，天下統一に向けて働きの大きかった人物はどちらか」という討論テーマのもと、事前に一人一人がまとめた資料から考えをまとめ、端末の情報共有機能を使ってそれぞれの考えを共有しながら、学級全体で理由を伝え合った。

学級全体の話合いでは、織田信長の働きが大きいとの意見が多かったが、豊臣秀吉が織田信長ができなかったことを成し遂げた等の意見を聞き合うことで、一人一人が新たな視点を得て、両者の働きがそれぞれつながり戦国の世の統一に至ったと考えを深めていた。

授業終末のふり返りでは、「両者がそれぞれの働きをしたことで、天下統一ができた。」「どちらかがいなければ、天下統一はできていなかったかもしれない。」等の記述が見られ、戦国の世の統一における2人の人物の業績について自分なりの考えをもつことができていた。

# 【社会・小6・「戦国の世から天下統一へ」】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



### 【良かった点】

- ・本時では情報共有機能を使い、事前に人物ごとに青（信長）と黄色（秀吉）のシートを作成することで、子どもが2人の政策への価値付けを行い、選択して自分の考えをまとめていた。色分けされていることで、一覧で共有した際に、それぞれの立場が明確であった。他者の考えを聞きたいというきっかけとして有効だった。
- ・友達の考えを聞き、再度資料を確認したり、既習のノートを見返したりして、再考する姿が見られた。
- ・学習問題を設定し学習計画を立てて見通しをもたせたことから、主体的に問題解決を行う子供の姿が現れた。振り返りの場面を位置付けたことも良かった。

### 【よりよい授業に向けて】

- ・よりよい調べ学習としていくため、難しい言葉や用語等を自分の言葉で書き直す等、理解の伴った情報収集と整理ができるように継続的に指導するとよい。
- ・発表された考えに対し、「なぜ、そのことを大きな働きと考えたのか。」「どうして、そのことが大きな働きと言えるのか。」「この考え方について、みんなはどう思うか。」等の問い返しをさらに行い、子ども自身が見いだした価値を深めたり広げたりできるとよい。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



【活用したソフトや機能】 ICT端末（情報共有機能使用） 大型提示装置（電子黒板）